

2022.10.14

総務常任委員会所管事務調査 「上越市第7次総合計画の策定について」

10月7日委員間討議 意見まとめ

総務常任委員会 正副委員長

1. 2040年を起点とするバックキャストイング手法の妥当性について
2. 市長のビジョン及び9つのプロジェクトと、第7次総合計画の連関性について
3. 新機軸はどこに示されているか、あるいは第6次総合計画との差異について
4. 「上越ならではの」と表現される独自性について
5. 市民との協働・共創の示し方について
6. 土地利用構想の妥当性について
7. その他（全体的に）
8. その他（細かな指摘）

1. 2040年を起点とするバックキャストイング手法の妥当性について

○バックキャストイング／フォアキャストイング、いずれにもメリット／デメリットがある。7次総においては、大きな課題にはバックキャストイング、目の前の課題解決にはフォアキャストイングであたってほしい。（創風：宮崎）

○前段において、現在の上越市が抱えている「危機感」を明らかにすべきだ。そのうえで「可能性」「生き抜く力」を示してほしい。（創風：宮崎）

○若者が未来に希望を持てる、例えば「ビッグデータ」の数値などを可視化してほしい。（創風：宮崎）

○基本構想と基本計画の整合性がいまひとつとれていないと感じる。重要テーマが、構想のどこに対応しているのか。唐突感がある。（日本共産党議員団：平良木）

○格差貧困社会／異常な低賃金・・・この疲弊を地方都市としてどう乗り切ろうとしているのか、前段に書き加えるべきだ。(無所属：宮越)

2. 市長のビジョン及び9つのプロジェクトと、第7次総合計画の連関性について

○総合計画案ではいまだ連関性が見えてこない。全体的に盛り込まれているといえばそうなのだが、具体的に示してほしい。(久比岐野：安田)

○市長のビジョン／プロジェクトを7次総のなかに書き込むことは必要ない。市長の7次総ではない。今のままでよい。(政新クラブ：栗田)

○7次総にプロジェクトとの連関性を書くのではなく、むしろプロジェクトのほうで、どこが7次総と連関しているのか示すべきだ。(創風：宮崎)

3. 新機軸はどこに示されているか、あるいは第6次総合計画との差異について ※議論が「新しい表現法」に傾斜したきらいがある。

○若者が共感できる表現(イラスト・写真の利用等)、文章の工夫をしてほしい。
(創風：宮崎)

○4つの重点テーマについて市民に知ってもらえるよう工夫してほしい。「ヒューマン／コミュニティ／デジタル／グリーン」をひとつのコピーにして市民に訴求したらどうか。(無所属：石田)

4. 「上越ならでは」と表現される独自性について

○市長は「上越ならでは」をみんなで探しましょうというのではなく、すでにあると考えている節がある。であるならば7次総において明確に示すべきだ。(創風：宮崎)

○「上越ならでは」ではなく「上越らしさ」という表現にすべきだ。「上越らしさ」とは「先進性」である。そういうことが垣間見られる総合計画にしなくてはならない。(無所属：宮越)

○(例えば)「農都市上越」は上越らしさがあり、先進性がある。農都市は地域づくりの原点、そこを訴求しブラッシュアップすれば「上越らしさ」を示せる。(無所属：宮越)

○上越ならではというなら、(例えば) P57「観光振興の強化」において、具体的な整備方針を明らかにすべきだ。観光振興への「本気度」がみえない。総体的に他市と差別化できるビジョン(具体的にやるべきこと)を示してほしい。(みらい：高山)

○謙信公の「義の心」はまさに「上越ならでは」であり、それをベースに訴求すべきだ。(公明党)

5. 市民との協働・共創の示し方について

○自治体と住民の共創だけではなく、必然的に民間事業者との共創もあり得る。三つ巴のなかでの、住民の役割を明確に示してほしい。(創風：宮崎)

○団体同士の共創もあり得る。盛り込んでほしい。(公明党)

6. 土地利用構想の妥当性について

- （全体意見として）底流に「コンパクトシティ」の方向性を堅持している。よって6次総の土地利用構想との違いが見えない。（必ずしも、「違うべきだ」という意見ではない）
- コンパクトシティを目指すなら目指すで、今後の方向性を示すべきではないか。（久比岐野：江口）
- 都市計画マスタープランに反映されるものであるから、6次総との違いを出すべきだ。（創風：宮崎）
- 現在の立地適正化計画は既存の6次総を基にしている。市長が「どこに住んでも良い」となろうとしているのに、土地利用構想が変わっていないのはおかしい。（政新クラブ：栗田）
- 「コンパクトシティ」は所謂周辺部が希薄になる。「ずっとその場に住み続けたい」という思いに応えようとしている市長の姿勢と矛盾するのではないか。（日本共産党議員団：平良木）
- 所謂「大浦安」などブロック制について言及しても良いのではないか。（公明党）

7. その他（全体的に）

- 数多くの成果指標が、あるべき姿を示す「目標（2030年までに実現したい状態）」に見合う数値になっていない。全体的に低すぎないか。ほぼ変わらないとか、むしろ低いとかの数値を示すのはおかしい。指標の意味がない。企画政策課と現場の各部署の間に齟齬があるとしか思えない。（政新クラブ：栗田）

※各委員からそれぞれ細かな成果指標の課題が指摘されているが個々に示さない。

○DX の進め方について、(上越市のような)人口が希薄なところでは、投資に見合う回収ができないのではないか。十分暮らしを支える見通しが立つのか疑問だ。そのあたりどう考えるか示してほしい。(日本共産党議員団：平良木)

8. その他(細かな指摘)

○国土強靱化、防災危機、観光の3点は、一つの自治体で対処することに限界がある。それぞれの文章にその点を付け加えてほしい。(創風：宮崎)

○P7 センター病院の位置、規模を示すべきだ。(久比岐野：江口)

○P27 リノベーションの基本理念、老朽化するまち上越そのもののリノベーションを明らかにすべきだ。(無所属：宮越)

○P31 路線バスの将来的な在り方を示すべきだ。(政新クラブ：栗田)

○P37「人権・多様性の尊重」にLGBTQを加えるべきだ。(政新クラブ：栗田)

○P42 若者のUターンに言及しているが、UターンだけではなくIターンJターンにも触れるべきだ。(政新クラブ：栗田)

○P44「地域自治の推進」「地域コミュニティ活動の活性化」についてももう少し書き込むべきだ。(政新クラブ：栗田)

○P51「企業立地の推進」にメタンハイドレートを盛り込むこと。(政新クラブ：栗田)

○P64「森林・水産資源の保全・活用」にバイオマス発電を入れること。(政新クラブ：栗田)

○P75 子どもたちの学びの場としての図書館の充実を示すべきだ。(無所属：宮越)

以上